



平成29年12月期  
第2四半期  
〈1～6月〉

## 連結決算補足資料

平成29年7月24日

**コクヨ株式会社**

(コード番号 7984)

経営管理本部 財務経理部

お問い合わせ先 : 統括部長 永井 琢也

TEL : 06-6976-1221(代表)

URL : <http://www.kokuyo.co.jp/>

# も く じ

1. 損益計算書の状況	
1-1 連結情報	…… P. 1
1-2 売上高	…… P. 2
1-3 売上総利益	…… P. 3
1-4 販売費及び一般管理費	…… P. 4
1-5 営業利益及び経常利益	…… P. 5
1-6 親会社株主に帰属する四半期純利益	…… P. 6
2. 貸借対照表の状況	…… P. 7
3. キャッシュフロー・設備投資の状況	…… P. 8
4. 事業セグメントの損益状況	
4-1 ステーションナリー関連事業	…… P. 9
4-2 ファニチャー関連事業	…… P.10
4-3 通販・小売関連事業	…… P.11
5. 29年12月期の見通し	…… P.12
6. 株主還元	…… P.12
7. 主なトピックス	…… P.13

(注)この資料に記述されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-1 連結情報

売上高は、通販事業のカウネットの増収等により、前年同期比0.2%増の1,658億円となりました。また、商品ミックスの改善、コストダウン、円高効果等により、売上総利益は597億円、売上総利益率は0.9ポイント向上の36.0%となりました。一方、販売費及び一般管理費は、人件費や販促費等の増加により、468億円となりました。以上により、営業利益は前年同期比4.4%増の128億円となりました。経常利益は、為替差損の縮小により前年同期比18.7%増の136億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、繰延税金資産の回収可能性の見直し等により、前年同期比32.7%増の109億円となりました。

(単位: 百万円)

	28年12月期 第2四半期	29年12月期 第2四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	165,484	165,818	+334	+0.2%
売上総利益 (率)	58,023 (35.1%)	59,703 (36.0%)	+1,680 (+0.9p)	+2.9%
販売費及び一般管理費 (率)	45,737 (27.6%)	46,873 (28.3%)	+1,136 (+0.6p)	+2.5%
営業利益 (率)	12,285 (7.4%)	12,830 (7.7%)	+545 (+0.3p)	+4.4%
経常利益 (率)	11,462 (6.9%)	13,600 (8.2%)	+2,138 (+1.3p)	+18.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (率)	8,276 (5.0%)	10,983 (6.6%)	+2,707 (+1.6p)	+32.7%

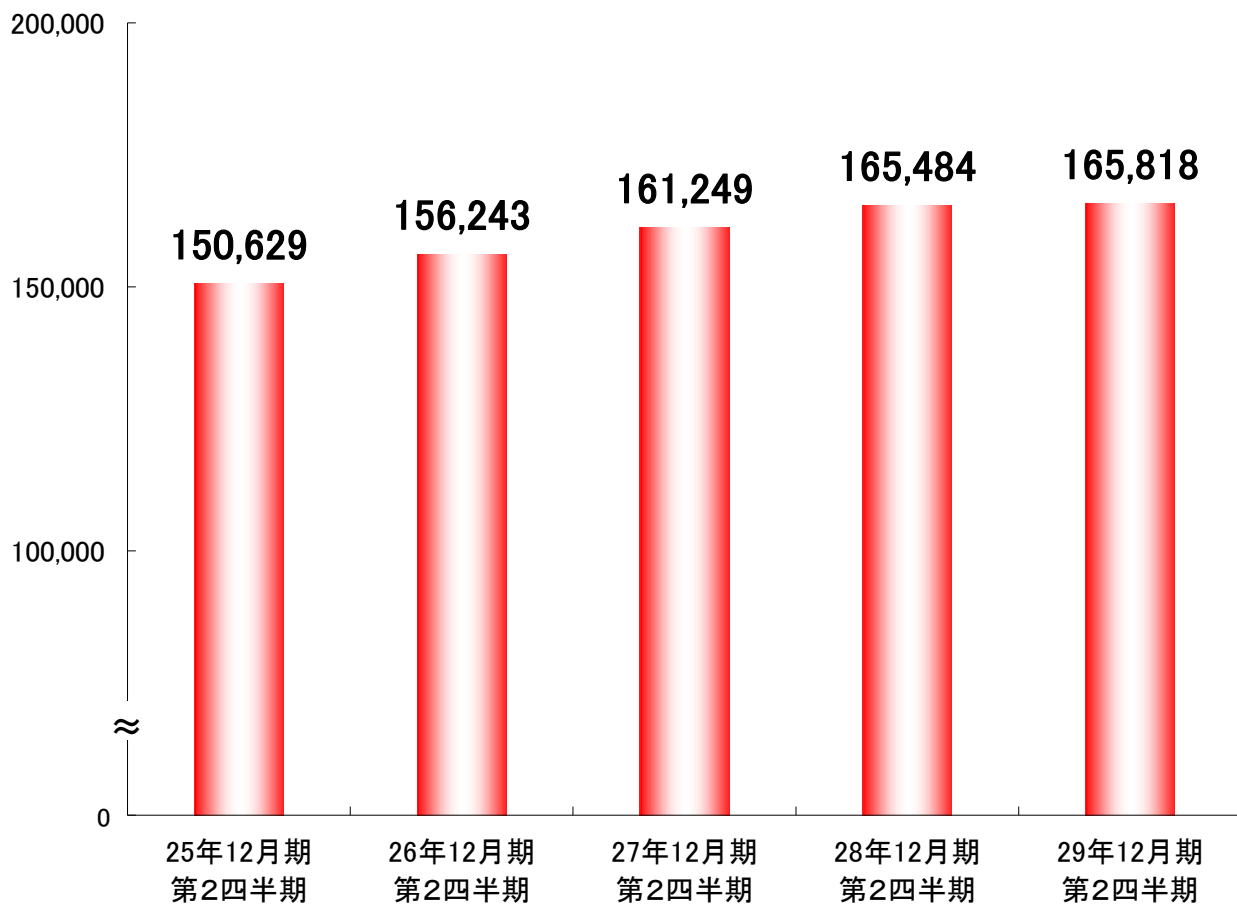
(注) 連結子会社21社・持分法適用関連会社1社

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-2 売上高

売上高は、通販事業のカウネットの増収等により、前年同期比0.2%増の1,658億円となりました。

(単位:百万円)



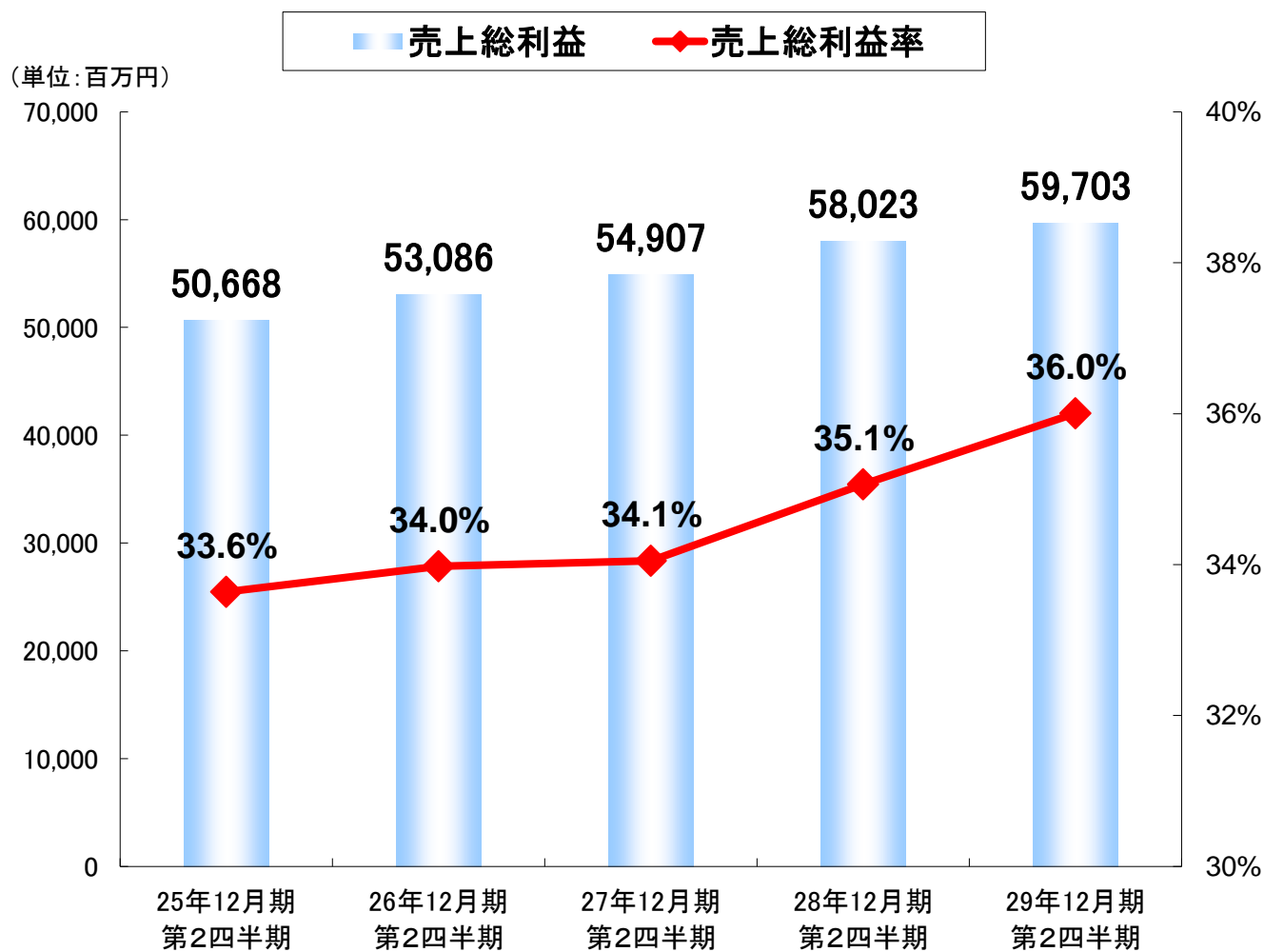
(単位:百万円)

	25年12月期 第2四半期	26年12月期 第2四半期	27年12月期 第2四半期	28年12月期 第2四半期	29年12月期 第2四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	150,629	156,243	161,249	165,484	165,818	+334	+0.2%
売上総利益 (率)	50,668 (33.6%)	53,086 (34.0%)	54,907 (34.1%)	58,023 (35.1%)	59,703 (36.0%)	+1,680 (+0.9p)	+2.9%
販売費及び一般管理費 (率)	44,102 (29.3%)	45,689 (29.2%)	46,025 (28.5%)	45,737 (27.6%)	46,873 (28.3%)	+1,136 (+0.6p)	+2.5%
営業利益 (率)	6,565 (4.4%)	7,396 (4.7%)	8,882 (5.5%)	12,285 (7.4%)	12,830 (7.7%)	+545 (+0.3p)	+4.4%
経常利益 (率)	7,759 (5.2%)	7,935 (5.1%)	9,814 (6.1%)	11,462 (6.9%)	13,600 (8.2%)	+2,138 (+1.3p)	+18.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,477 (3.0%)	3,995 (2.6%)	6,037 (3.7%)	8,276 (5.0%)	10,983 (6.6%)	+2,707 (+1.6p)	+32.7%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-3 売上総利益

売上総利益は、売上総利益率の改善により、前年同期比2.9%増の597億円となりました。  
 売上総利益率は、商品ミックスの改善、コストダウン、円高効果等により、0.9ポイント向上し36.0%となりました。



(単位: 百万円)

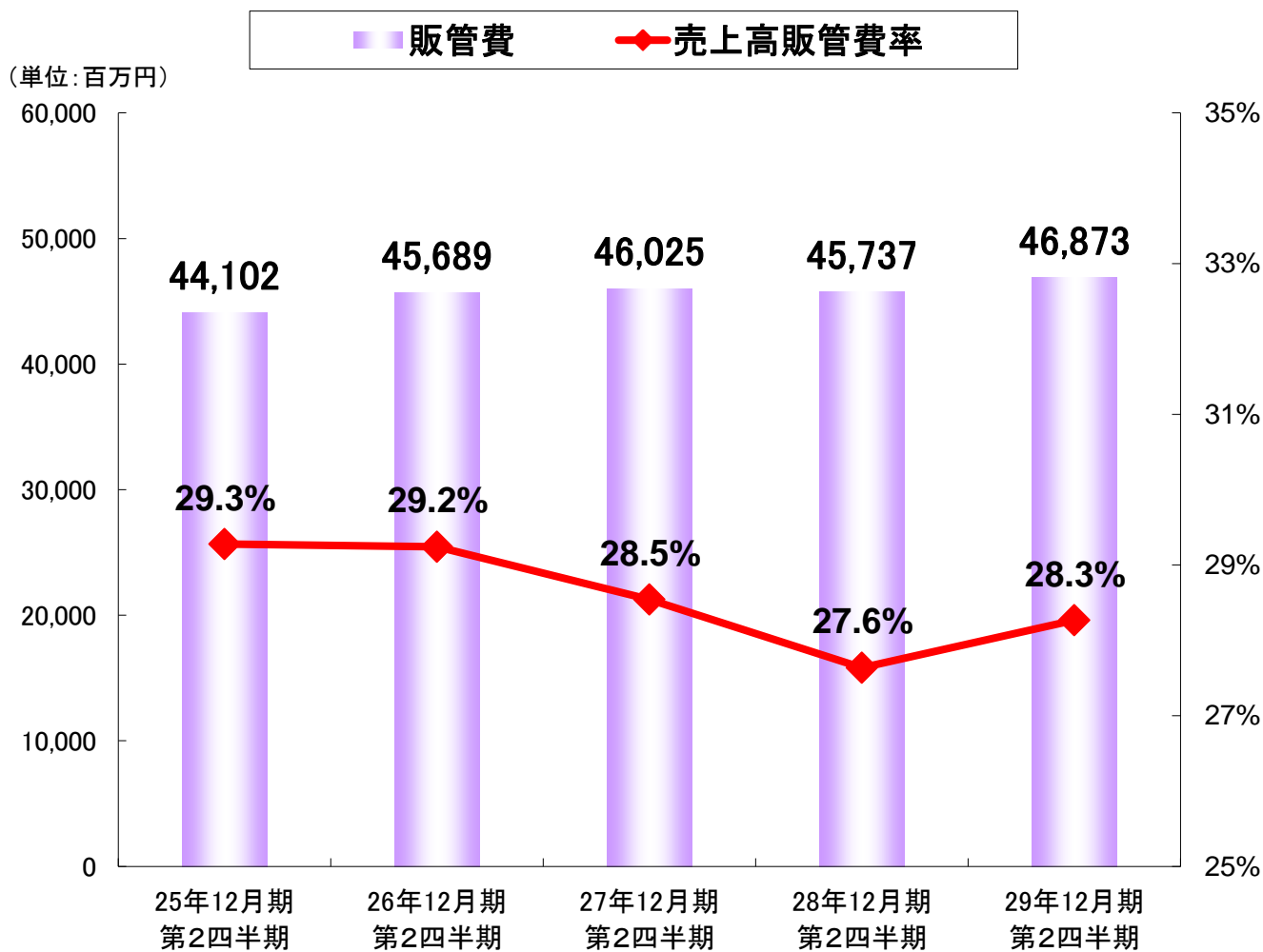
	25年12月期 第2四半期	26年12月期 第2四半期	27年12月期 第2四半期	28年12月期 第2四半期	29年12月期 第2四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	150,629	156,243	161,249	165,484	165,818	+334	+0.2%
売上総利益 (率)	50,668 (33.6%)	53,086 (34.0%)	54,907 (34.1%)	58,023 (35.1%)	59,703 (36.0%)	+1,680 (+0.9p)	+2.9%
販売費及び一般管理費 (率)	44,102 (29.3%)	45,689 (29.2%)	46,025 (28.5%)	45,737 (27.6%)	46,873 (28.3%)	+1,136 (+0.6p)	+2.5%
営業利益 (率)	6,565 (4.4%)	7,396 (4.7%)	8,882 (5.5%)	12,285 (7.4%)	12,830 (7.7%)	+545 (+0.3p)	+4.4%
経常利益 (率)	7,759 (5.2%)	7,935 (5.1%)	9,814 (6.1%)	11,462 (6.9%)	13,600 (8.2%)	+2,138 (+1.3p)	+18.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,477 (3.0%)	3,995 (2.6%)	6,037 (3.7%)	8,276 (5.0%)	10,983 (6.6%)	+2,707 (+1.6p)	+32.7%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-4 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、人件費や販促費等の増加により、前年同期比2.5%増の468億円となりました。

売上高販管費率は、28.3%と0.6ポイント上昇しました。



(単位: 百万円)

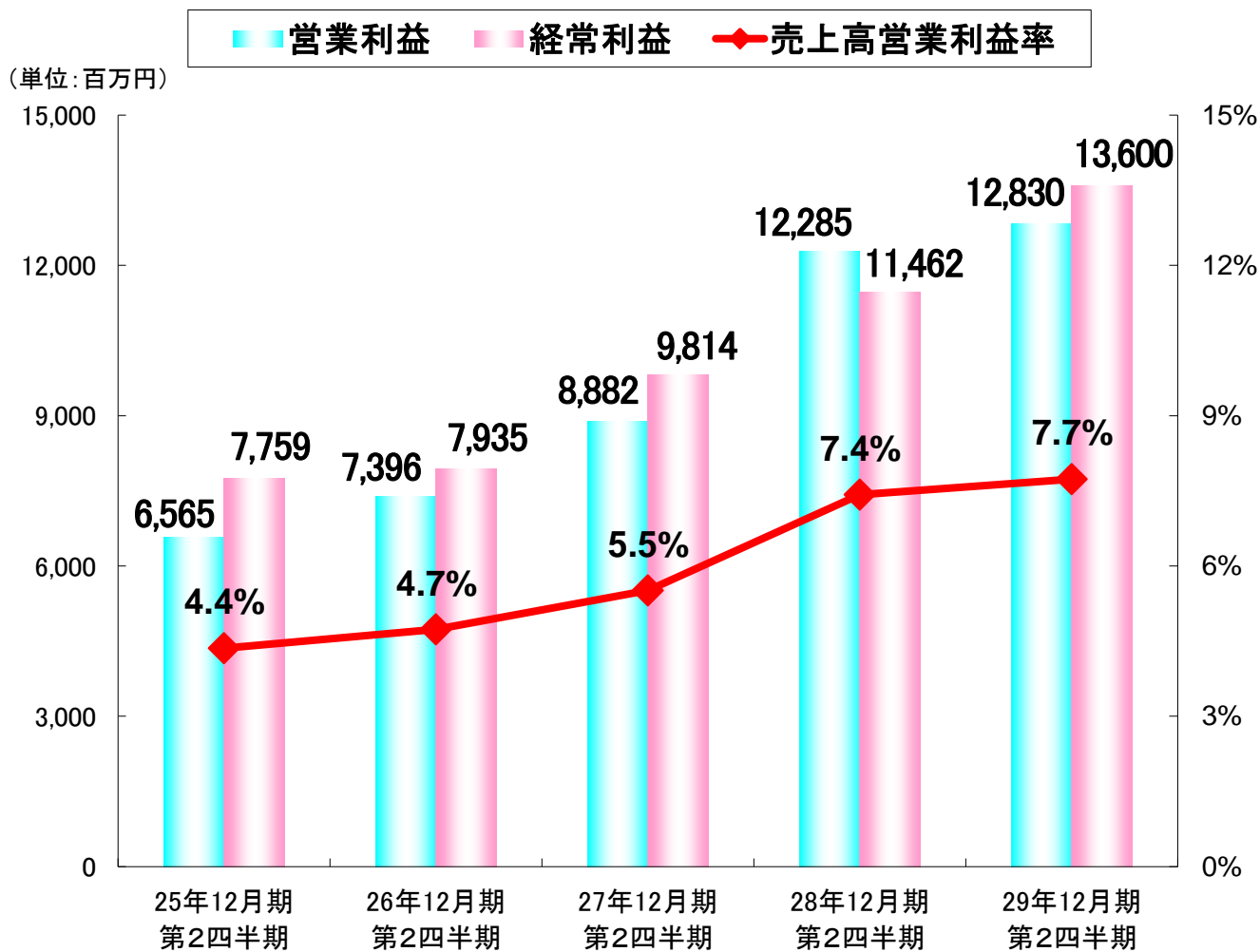
	25年12月期第2四半期	26年12月期第2四半期	27年12月期第2四半期	28年12月期第2四半期	29年12月期第2四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	150,629	156,243	161,249	165,484	165,818	+334	+0.2%
売上総利益 (率)	50,668 (33.6%)	53,086 (34.0%)	54,907 (34.1%)	58,023 (35.1%)	59,703 (36.0%)	+1,680 (+0.9p)	+2.9%
販売費及び一般管理費 (率)	44,102 (29.3%)	45,689 (29.2%)	46,025 (28.5%)	45,737 (27.6%)	46,873 (28.3%)	+1,136 (+0.6p)	+2.5%
営業利益 (率)	6,565 (4.4%)	7,396 (4.7%)	8,882 (5.5%)	12,285 (7.4%)	12,830 (7.7%)	+545 (+0.3p)	+4.4%
経常利益 (率)	7,759 (5.2%)	7,935 (5.1%)	9,814 (6.1%)	11,462 (6.9%)	13,600 (8.2%)	+2,138 (+1.3p)	+18.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,477 (3.0%)	3,995 (2.6%)	6,037 (3.7%)	8,276 (5.0%)	10,983 (6.6%)	+2,707 (+1.6p)	+32.7%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-5 営業利益及び経常利益

営業利益は、前年同期比4.4%増の128億円となりました。

経常利益は、為替差損の縮小により、前年同期比18.7%増の136億円となりました。



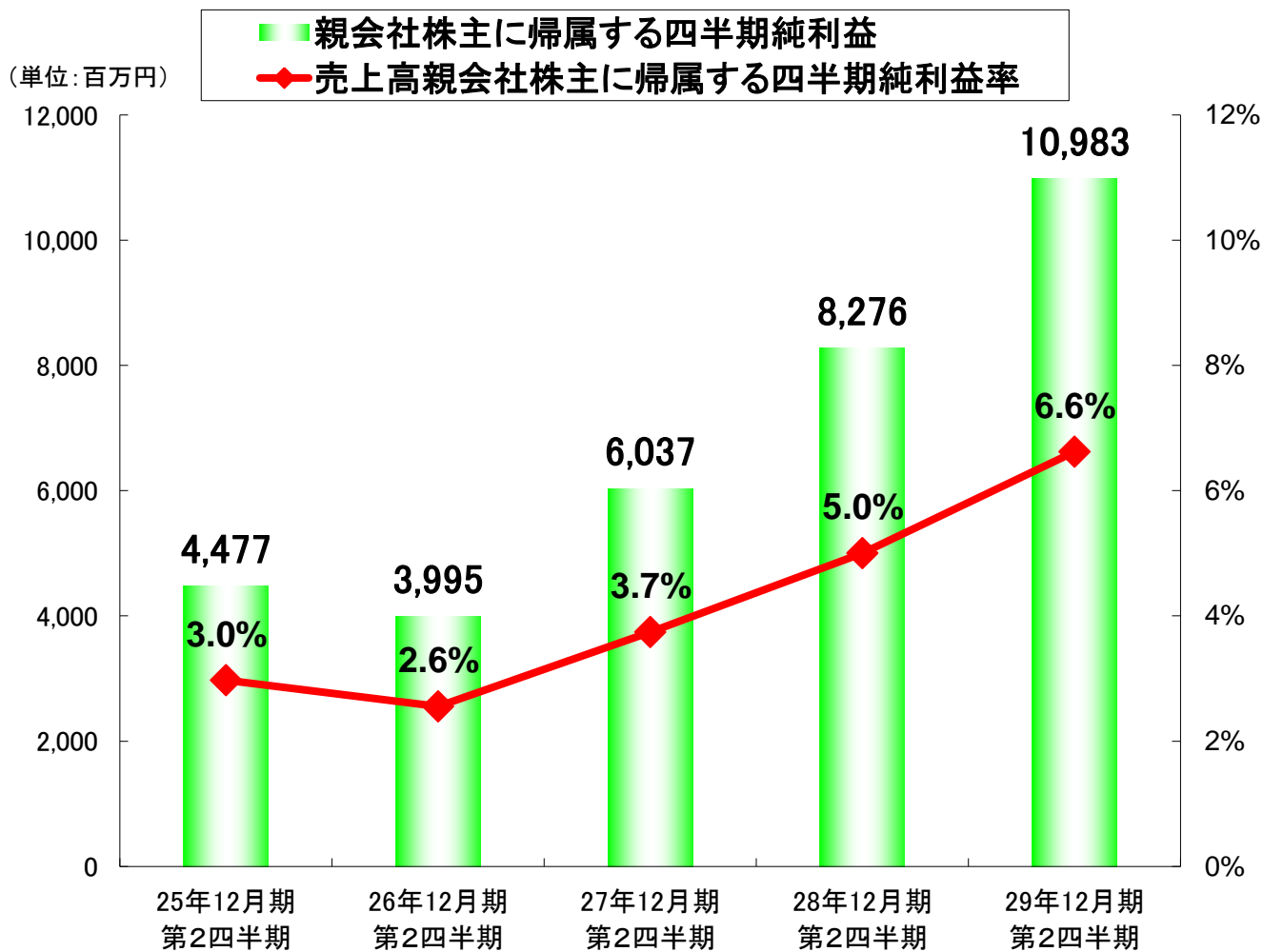
(単位: 百万円)

	25年12月期 第2四半期	26年12月期 第2四半期	27年12月期 第2四半期	28年12月期 第2四半期	29年12月期 第2四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	150,629	156,243	161,249	165,484	165,818	+334	+0.2%
売上総利益 (率)	50,668 (33.6%)	53,086 (34.0%)	54,907 (34.1%)	58,023 (35.1%)	59,703 (36.0%)	+1,680 (+0.9p)	+2.9%
販売費及び一般管理費 (率)	44,102 (29.3%)	45,689 (29.2%)	46,025 (28.5%)	45,737 (27.6%)	46,873 (28.3%)	+1,136 (+0.6p)	+2.5%
営業利益 (率)	6,565 (4.4%)	7,396 (4.7%)	8,882 (5.5%)	12,285 (7.4%)	12,830 (7.7%)	+545 (+0.3p)	+4.4%
経常利益 (率)	7,759 (5.2%)	7,935 (5.1%)	9,814 (6.1%)	11,462 (6.9%)	13,600 (8.2%)	+2,138 (+1.3p)	+18.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,477 (3.0%)	3,995 (2.6%)	6,037 (3.7%)	8,276 (5.0%)	10,983 (6.6%)	+2,707 (+1.6p)	+32.7%

# 1. 損益計算書の状況

## ◆1-6 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、繰延税金資産の回収可能性の見直し等により、前年同期比32.7%増の109億円となりました。



(単位: 百万円)

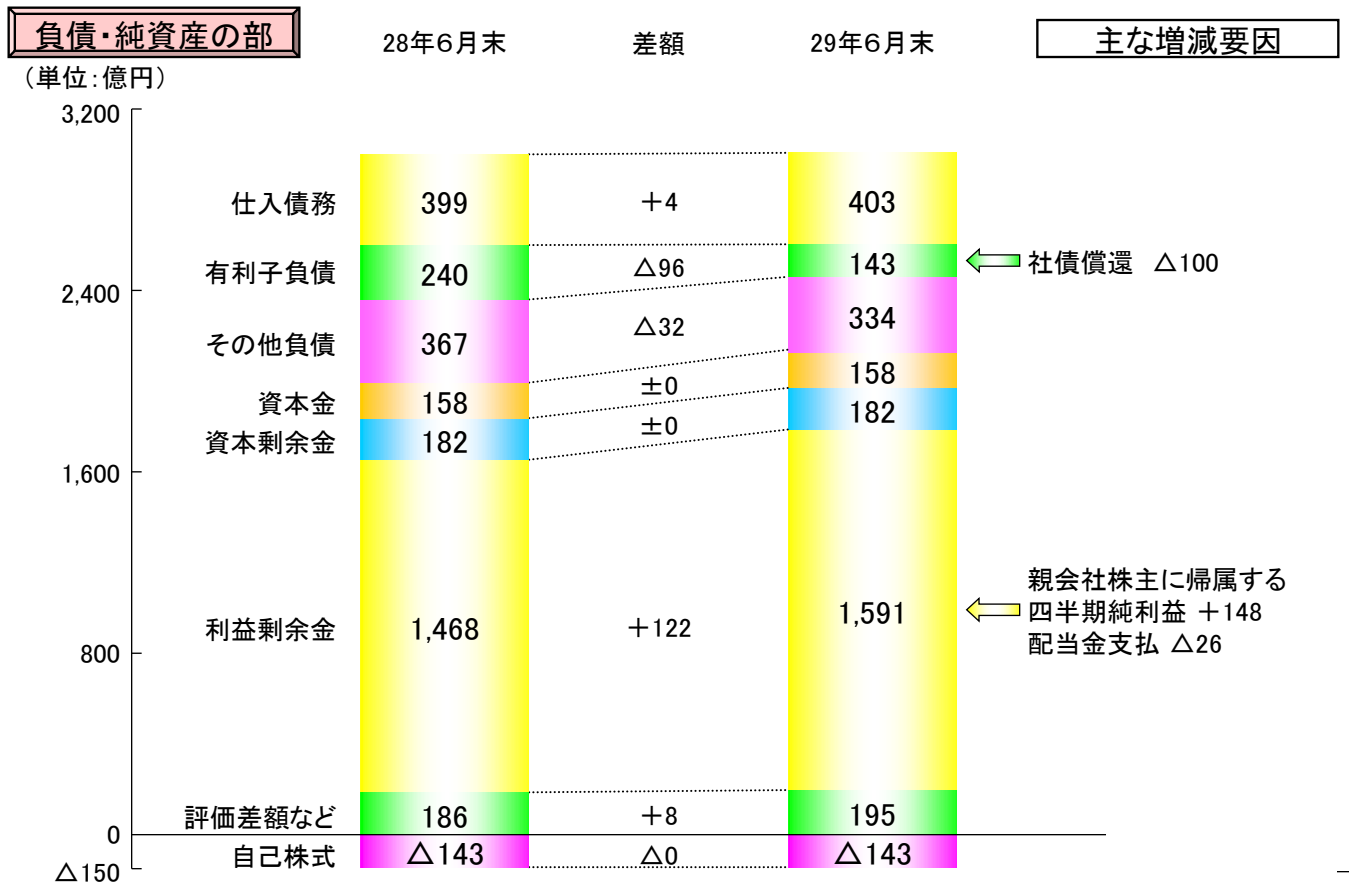
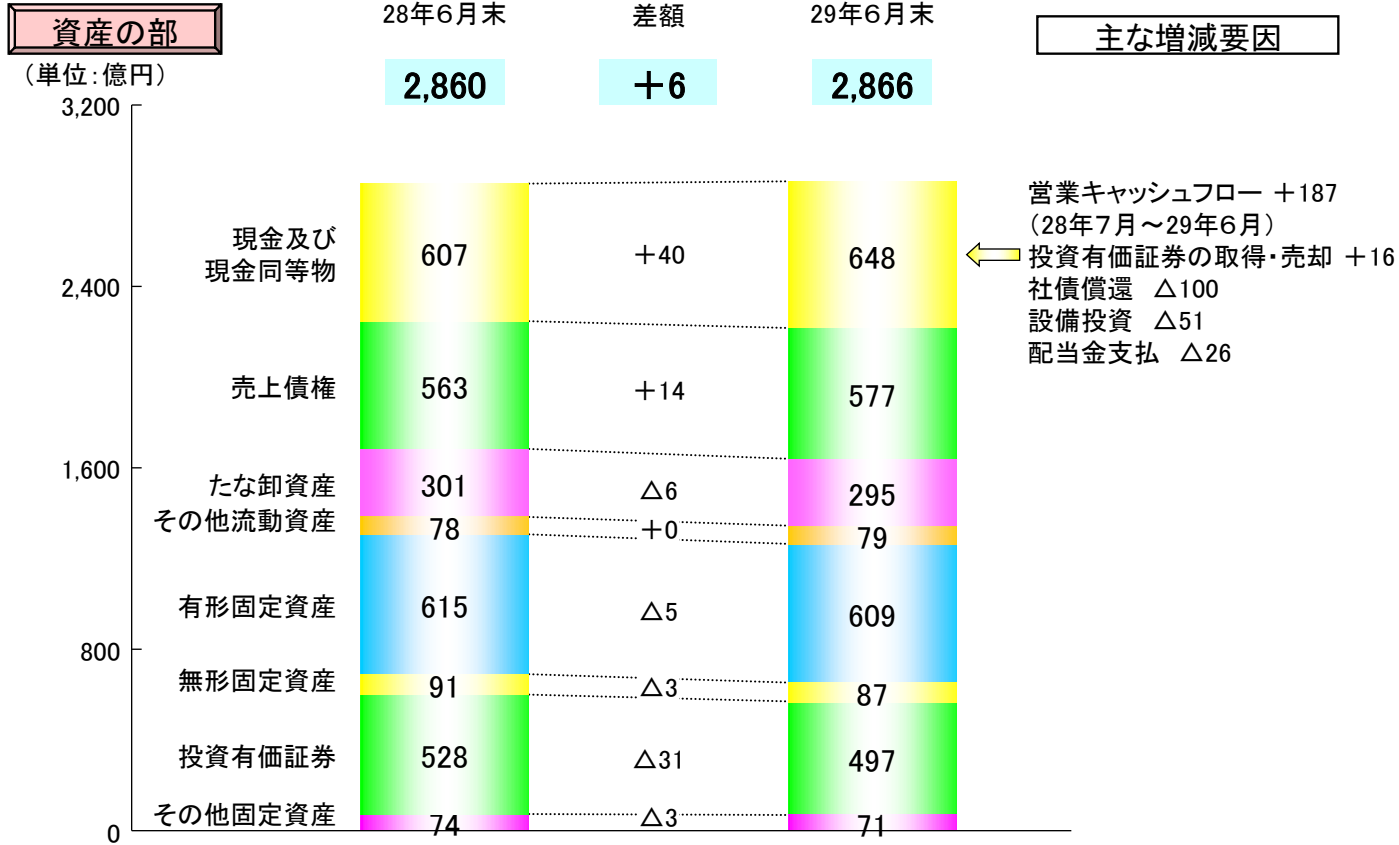
	25年12月期 第2四半期	26年12月期 第2四半期	27年12月期 第2四半期	28年12月期 第2四半期	29年12月期 第2四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
経常利益 (率)	7,759 (5.2%)	7,935 (5.1%)	9,814 (6.1%)	11,462 (6.9%)	13,600 (8.2%)	+2,138 (+1.3p)	+18.7%
特別損益	△473	△384	+140	+310	△165	△475	—
特別利益	+403	+56	+1,450	+387	—	△387	—
特別損失	△876	△441	△1,309	△76	△165	△89	—
税金等調整前四半期純利益 (率)	7,286 (4.8%)	7,550 (4.8%)	9,954 (6.2%)	11,773 (7.1%)	13,434 (8.1%)	+1,661 (+1.0p)	+14.1%
法人税等	2,809	3,554	3,917	3,496	2,451	△1,045	△29.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,477 (3.0%)	3,995 (2.6%)	6,037 (3.7%)	8,276 (5.0%)	10,983 (6.6%)	+2,707 (+1.6p)	+32.7%



## 2. 貸借対照表の状況

総資産は、前年同期末より6億円増加し、2,866億円となりました。

※比較のため前期の数値は28年12月期第2四半期(28年6月末)を使用しており、決算短信記載の数値と異なります。  
 ※億円未満を切り捨てて表記しています。そのため合計が一致しない場合があります。



### 3. キャッシュフロー・設備投資の状況

#### <キャッシュフロー>

営業キャッシュフローは107億円、投資キャッシュフローは△15億円となり、フリーキャッシュフロー(※)は92億円となりました。  
 また、財務キャッシュフローは社債の償還等により△116億円となりました。  
 以上の結果、当期末の現金及び現金同等物は、期首から24億円減少し、648億円となりました。

(※) フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー＋投資キャッシュフロー

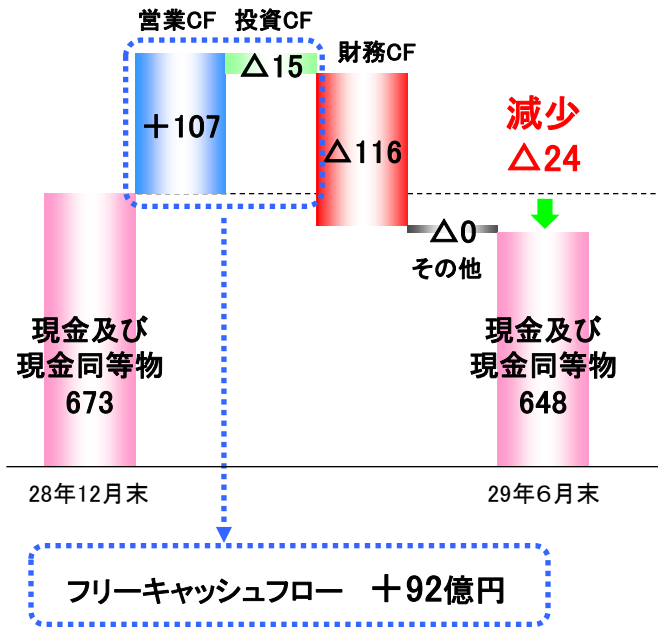
#### <設備投資>

設備投資は、25億円を実施しました。

※億円未満を切り捨てて表記しています。そのため合計が一致しない場合があります。

#### □ 現金及び現金同等物の増減内訳 29年12月期 <1～6月>

(単位:億円)



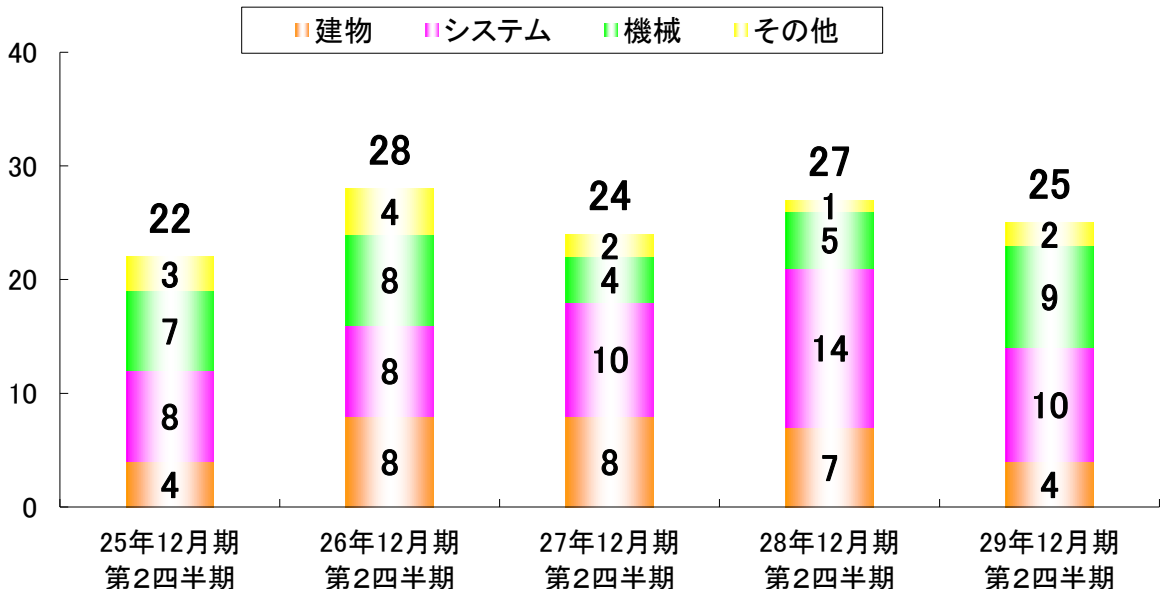
#### □ キャッシュ・フロー計算書 29年12月期 <1～6月>

(単位:億円)

◆営業キャッシュフロー	+107
税金等調整前四半期純利益	+134
賞与引当金の増減	+38
減価償却費	+32
債権債務の増減	△52
法人税等の支払	△28
その他	△16
◆投資キャッシュフロー	△15
投資有価証券の取得、売却	+9
設備投資	△25
◆財務キャッシュフロー	△116
社債の償還	△100
配当金の支払	△17
その他	+1

#### □ 設備投資の推移

(単位:億円)



## 4. 事業セグメントの損益状況

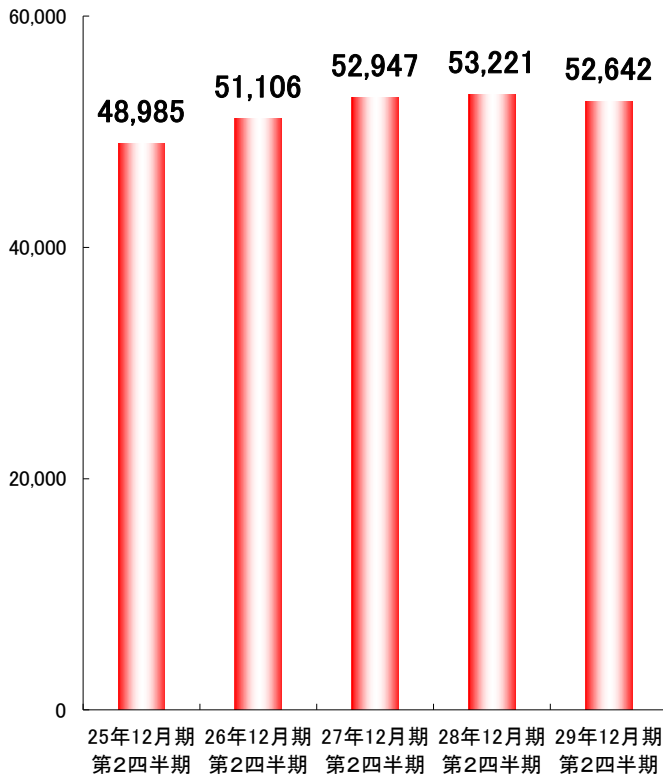
### ◆4-1 ステーションナリー関連事業

売上高は、定番品の減退や他メーカーとの競争激化による販売減少等の影響に対し、開発の遅れ等により新製品の伸びが不足した影響で、国内事業が減収となったことから、前年同期比1.1%減の526億円となりました。

営業利益は、国内の新基幹システム稼働に伴う経費の計上や広告宣伝費の増加があったものの、商品ミックスの改善やコストダウンの推進等により売上総利益率が改善し、前年同期比6.9%増の48億円となりました。

### 売上高

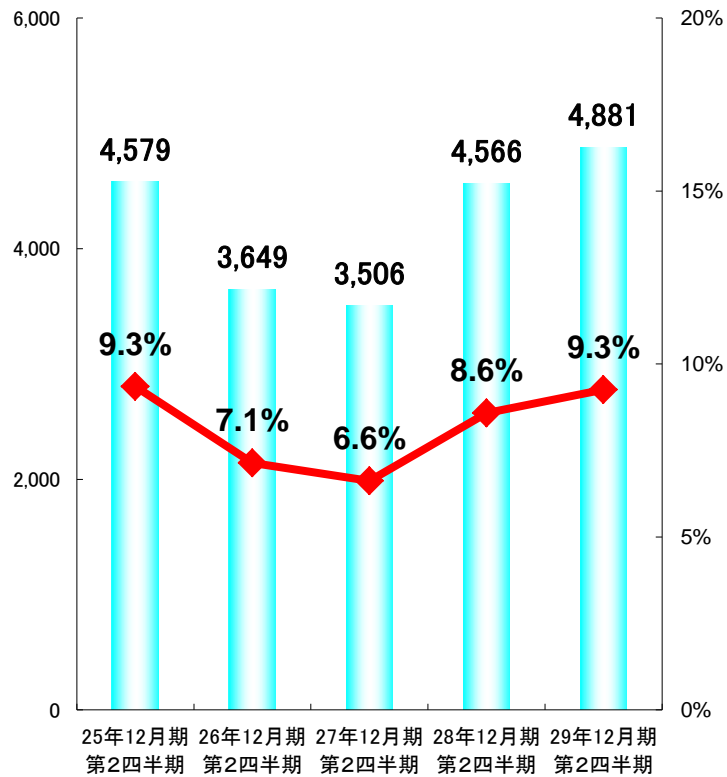
(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)

◆売上高営業利益率



(単位:百万円)

	25年12月期 第2四半期	26年12月期 第2四半期	27年12月期 第2四半期	28年12月期 第2四半期	29年12月期 第2四半期	前年差額 (前年差率)	増減率
売上高	48,985	51,106	52,947	53,221	52,642	△579	△1.1%
営業利益 (率)	4,579 (9.3%)	3,649 (7.1%)	3,506 (6.6%)	4,566 (8.6%)	4,881 (9.3%)	+315 (+0.7p)	+6.9%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。

※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、平成28年12月期より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しております。

## 4. 事業セグメントの損益状況

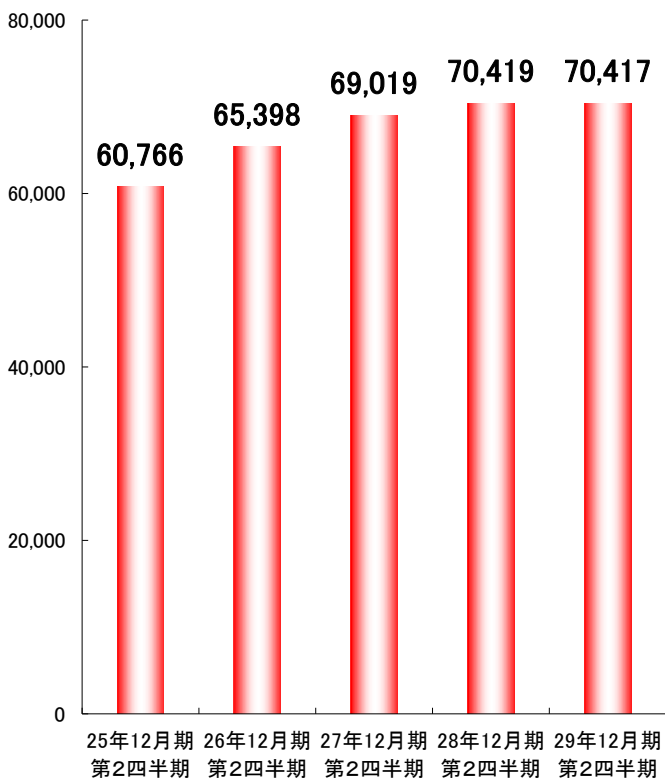
### ◆4-2 ファニチャー関連事業

売上高は、国内でのオフィス家具販売が増収となったものの、店舗什器の販売及び海外事業が減収となり、前年並みの704億円となりました。

営業利益は、商品ミックスの改善やコストダウンの推進等により売上総利益率が改善し、前年同期比3.5%増の80億円となりました。

### 売上高

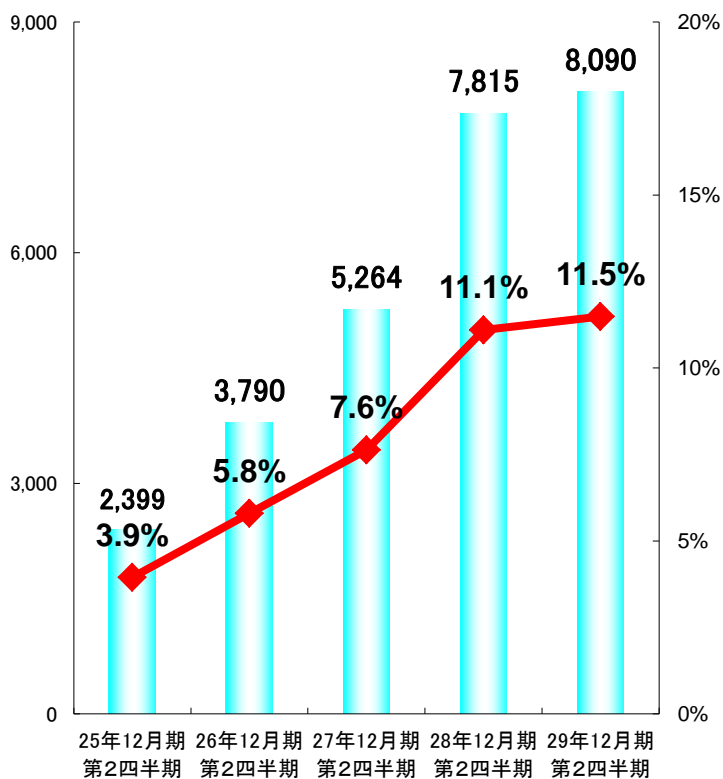
(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)

◆ 売上高営業利益率



(単位:百万円)

	25年12月期 第2四半期	26年12月期 第2四半期	27年12月期 第2四半期	28年12月期 第2四半期	29年12月期 第2四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	60,766	65,398	69,019	70,419	70,417	△2	△0.0%
営業利益 (率)	2,399 (3.9%)	3,790 (5.8%)	5,264 (7.6%)	7,815 (11.1%)	8,090 (11.5%)	+275 (+0.4p)	+3.5%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。

※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、平成28年12月期より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しております。

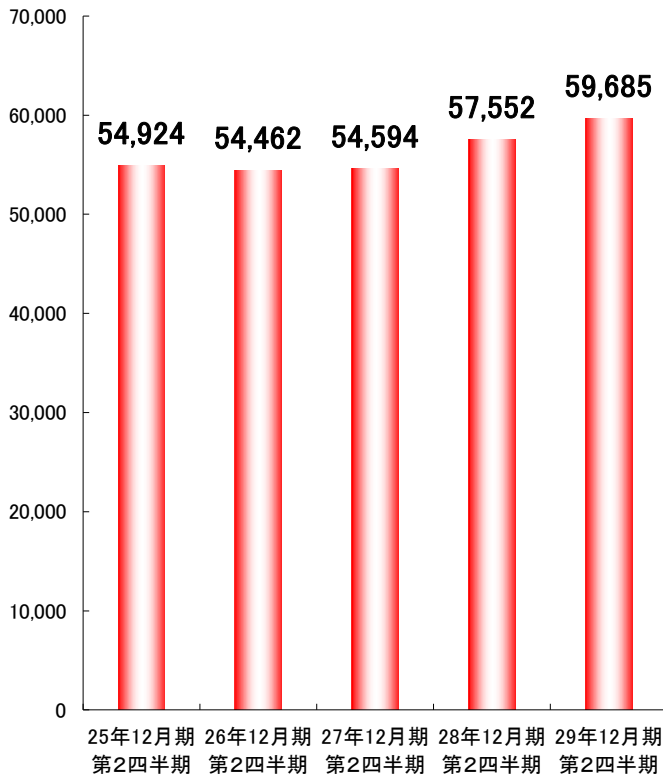
## 4. 事業セグメントの損益状況

### ◆4-3 通販・小売関連事業

売上高は、カウネット及びアクタスとも増収となり、前年同期比3.7%増の596億円となりました。  
営業利益は、増収に伴う売上総利益の増加により、前年同期比13.5%増の26億円となりました。

### 売上高

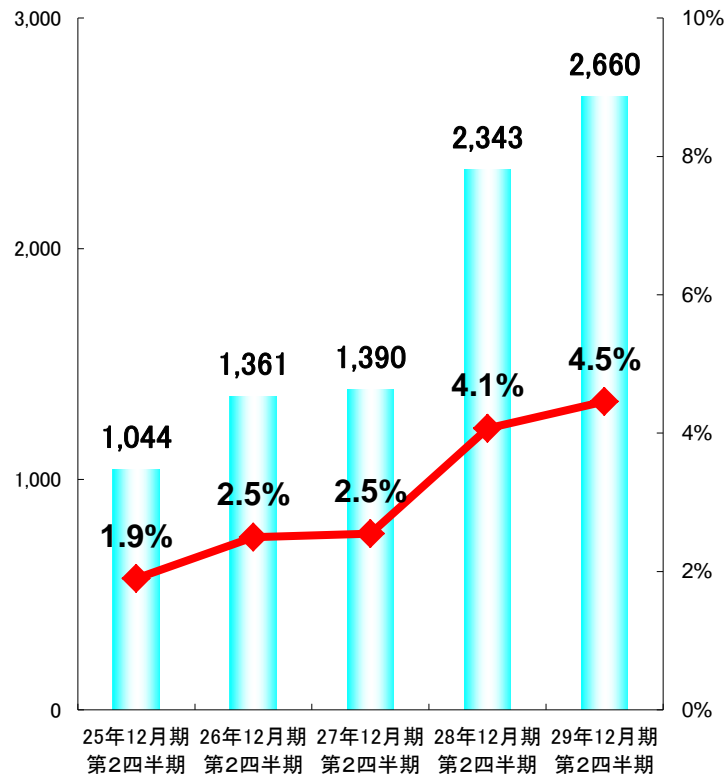
(単位:百万円)



### 営業利益

(単位:百万円)

◆ 売上高営業利益率



(単位:百万円)

	25年12月期 第2四半期	26年12月期 第2四半期	27年12月期 第2四半期	28年12月期 第2四半期	29年12月期 第2四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	54,924	54,462	54,594	57,552	59,685	+2,133	+3.7%
営業利益 (率)	1,044 (1.9%)	1,361 (2.5%)	1,390 (2.5%)	2,343 (4.1%)	2,660 (4.5%)	+317 (+0.4p)	+13.5%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。

※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、平成28年12月期より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しております。

## 5. 29年12月期の見通し

当第2四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを踏まえ、平成29年12月期の業績予想を修正しました。

### 通 期

(単位:百万円)

	28年12月期 通期 実績 (12ヶ月)	29年12月期 通期 予想 (12ヶ月)	前年差額	前年率差	増減率	(ご参考) 当初予想
売 上 高	307,625	312,800	+5,175		+1.7%	316,000
ステーションリー	97,115	97,500	+385		+0.4%	98,100
ファニチャー	127,418	130,200	+2,782		+2.2%	133,800
通販・小売	113,429	116,800	+3,371		+3.0%	116,400
調 整 額	△ 30,338	△ 31,700	△ 1,362		-	△ 32,300
営 業 利 益 (率)	15,438 (5.0%)	16,800 (5.4%)	+1,362	+0.4p	+8.8%	16,000
ステーションリー (率)	6,712 (6.9%)	7,200 (7.4%)	+488	+0.5p	+7.3%	6,500
ファニチャー (率)	10,541 (8.3%)	11,600 (8.9%)	+1,059	+0.6p	+10.0%	11,900
通販・小売 (率)	3,592 (3.2%)	4,100 (3.5%)	+508	+0.3p	+14.1%	3,800
調 整 額	△ 5,407	△ 6,100	△ 693		-	△ 6,200
経 常 利 益 (率)	15,690 (5.1%)	18,000 (5.8%)	+2,310	+0.7p	+14.7%	16,300
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	12,182 (4.0%)	13,900 (4.4%)	+1,718	+0.5p	+14.1%	12,500

※この資料に記述されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 6. 株主還元

当社は、中長期にわたる企業価値の最大化に向けて、持続的な事業の成長に努め、株主への利益配当額の向上に取り組んでおり、平成30年12月期までに配当性向25%を実現することを目標としています。

当第2四半期連結累計期間の業績が利益面で予想値を上回ったことや、平成29年12月期の業績予想を修正したことを勘案し、中間配当を直近の配当予想から1株当たり1円50銭増配し、1株当たり13円50銭とすることとしました。また、期末配当予想についても、直近の配当予想から1株当たり1円00銭増配し、1株当たり13円50銭とすることとしました。この結果、年間配当予想(中間配当1株当たり13円50銭を含む)は、1株当たり27円00銭となります。

	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
28年12月期 (前期実績)	7円50銭	14円50銭	22円00銭
29年12月期 (当初予想)	12円00銭	12円50銭	24円50銭
29年12月期 (修正予想)	13円50銭 (実績)	13円50銭 (予想)	27円00銭 (予想)



### ～生活と仕事に刺激や発見をもたらすショップ&カフェ～ 「THINK OF THINGS(シンク オブ シングス)」をオープン

当社は、東京・千駄ヶ谷にライフスタイルショップ&カフェ「THINK OF THINGS(シンク オブ シングス)」をオープンしました。

当社は、創業以来、文房具とオフィスファニチャーを中心に、人々の「働く」「学ぶ」フィールドをサポートしてきました。近年、お客様のニーズは多様化し、生活と仕事の境界線が曖昧さを増す中、「働く」「学ぶ」に留まらず「暮らす」という視点を加え、ワークスタイルとライフスタイルの双方に資する価値提供を推進しています。

「THINK OF THINGS」は、「ワークとライフの境界を超える」をテーマとしています。暮らしと仕事(学び)を割り切って考えるのではなく、同じベクトルで見渡すことで、より自分らしさを認識したり、自分の可能性を見出すことにつながるのではないのでしょうか。

生活と仕事の双方に刺激や発見をもたらす道具という観点で、オリジナル商品とセレクト商品を展開し、自分らしい“スタンダード”(“好き”“心地よい”)について考えたり、見つけるきっかけになりたいと考えています。

施設内にはレンタルも可能な多目的スペース「STUDIO」(2階)、コクヨオフィス(3階)を併設し、さまざまなかたちでお客様や地域の皆さんと交流を持ちながら、顧客接点の場を活用したスピード感のある商品・サービス開発も実践していきます。

千駄ヶ谷地区は、原宿や表参道の近隣でありながら落ち着いた雰囲気を保ち、流行とは一線を画した個性的なショップやクリエイターのオフィスも多く、新しい価値を求める人が集まる場所です。そうした刺激的な環境で、ショップ名が表す通り、道具を手に取りながら“モノ/コトについて考えられる場所”を目指します。



# THINK OF THINGS



#### CAFE (1階)

<OBSCURA COFFEE ROASTERS>プロデュースの、自分好みを選べる4種のコーヒーを基本としたドリンクメニューと、お店で揚げる出来立てコロッケを挟むなど、フード系とスイーツ系を揃えたワンハンドスタイルのコッペパンサンドを提供します。



#### STUDIO (2階)

2階の多目的スペースでは、自主企画のイベントを開催しながら、レンタルスペースとしての開放を予定しています。

面積：約28坪/席数：32席



## 7. 主なトピックス

### ～売上No.1(※)テープのりドットライナー～ 中川大志さんを起用したTVCMを放映

当社は、中川大志さんを起用したドットライナーシリーズのTVCMを放映しました。

ドットライナーシリーズは平成17年の発売以来、「のり」がドット(=点)状に粘着することでのりの切れが良く、手軽に美しくのり付けができることで好評をいただき、累計9,000万個を販売(平成29年4月時点)、多くの方にご愛用いただいているテープのりです。

(※)平成27年販売金額 コクヨ調べ



写真:【TVCM】コクヨのヨココ テープのりドットライナー編

#### ◆CM内容

ドットライナーの象徴的なカラーである「ブルー」で統一されたスタイリッシュな世界観をつくり、一步先をいくテープのりの先進性を訴求する内容です。

学校・会社・家庭においてスティックのりの使用シーンでおこりがちな困りごとに対して、ドットライナーの化身となった中川大志さんがフツと現れ好感が持てるチャーミングな演技を披露、テープのり(ドットライナー)の魅力を伝えます。

### ～募集テーマは『NEW STORY』～ 「コクヨデザインアワード2017」を開催

当社は、使う人の視点で優れたデザインを、広く一般ユーザーから集めて商品化をめざすコンペティション「コクヨデザインアワード2017」を開催します。

当社は、創業以来、文房具とオフィス用家具を中心に、人々の「働く」「学ぶ」フィールドをサポートしてきました。近年、お客様のニーズは多様化し、生活と仕事の境界線が曖昧さを増す中、「働く」「学ぶ」に留まらず「暮らす」という視点を加え、ワークスタイルとライフスタイルの双方に資する価値提供を推進しています。

コクヨデザインアワード2017では、『NEW STORY』をテーマに、「働く」「学ぶ」「暮らす」シーンにおける新しいストーリーを描く作品を募集します。近年、『美しい暮らし』(平成27年)、『HOW TO LIVE』(平成28年)と、実用性やデザインの美しさだけでなく、暮らし方や生き方の提案まで問うテーマを掲げてきました。今年はその方向性に加えて、モノが溢れる時代の中でも新鮮で、新しいジャンルを確立していけるような力を持った作品を期待しています。なお、結果発表は、平成30年1月18日を予定しています。



KOKUYO DESIGN AWARD 2017 - NEW STORY -

※「コクヨデザインアワード」は、平成14年の創設以来、今回で15回目(平成22年開催のみ休止)となり、これまでに受賞作品の中から「カドケシ」、「和ごむ」、「なまえのないえのぐ」等の商品が誕生しています。前回の応募件数は合計1,307点、応募者の国籍は日本を含めて44カ国におよび、プロダクトデザインの国際コンペティションとして認知を広げています。詳細は、<http://www.kokuyo.co.jp/award/> をご参照ください。